

計算式の使用方式

計算式を使うと項目間の計算だけでなく、出力内容に関数を指定することが可能になります。
以下に使用例と指定方法を示します。

項目間の計算

- ・項目1の消費税額を求める
 $\%1 * 5 / 100$
- ・項目1と項目2の差を求める
 $\%1 - \%2$
- ・日時型項目間で経過時間(分)を求める
* 日時型項目間で減算を行った場合、結果は日単位になりますので、分を求めるために
 $60 \times 24 = 1440$ を掛けます。
 $(\%1 - \%2) * 1440$

関数の指定

- ・項目1が'M'の場合は'男'、それ以外は'女'と出力する
 $\text{DECODE}(\%1, 'M', '男', '女')$
- ・項目1が'M'の場合は'男'、'F'の場合は'女'、それ以外は'不明'と出力する
 $\text{DECODE}(\%1, 'M', '男', 'F', '女', '不明')$
- ・項目1と項目2を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する
 $\text{DECODE}(\%1, \%2, 0, 1)$
- ・項目1と項目2の先頭3桁を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する
 $\text{DECODE}(\%1, \text{SUBSTR}(\%2, 1, 3), 0, 1)$
- ・項目1がブランクの場合は項目2、項目1がブランクでない場合は項目1と項目3を比較し、
値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する
 $\text{DECODE}(\text{DECODE}(\%1, '', \%2, \%1), \%3, 0, 1)$
- ・項目1がNULLの場合は項目2、項目1がNULLでない場合は項目1と項目3を比較し、
値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する
 $\text{DECODE}(\text{DECODE}(\text{NVL}(\%1, 1), 1, \%2, \%1), \%3, 0, 1)$

* %1が文字型の項目の場合
 $\text{DECODE}(\text{DECODE}(\text{NVL}(\%1, 'NULL'), 'NULL', \%2, \%1), \%3, 0, 1)$

この他にも、TO_VAL、TO_CHAR、MONTHS_BETWEENなど、色々な関数を使用できますので、
用途に応じて試してください。

その他

- ・集計処理でレコードの件数をカウントする
計算式に1(数字)を指定し、集計方法を合計にする。

計算式の条件抽出

- ・計算式に抽出条件を指定することも可能です。但し、この場合、計算結果は数値でなければなりません。

計算式の指定方法

1. <システム設定>より該当のデータ辞書のプロパティを表示する。

No.	辞書項目名称	参照テーブル名	参照テーブル名.カラム名
1	伝票番号	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_NO
2	行番号	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_GYO_NO
3	伝票日付	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_DATE
4	年月	日付変換マスタ	SAM_DAY.NENGETSU
5	年	日付変換マスタ	SAM_DAY.NEN
6	商品コード	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_GYO_CD
7	分類コード	商品マスタ	SAM_SYOHIN.BUN_CD
8	分類名称	分類テーブル	SAM_MEI.MEI
9	相手先商品コード	商品マスタ	SAM_SYOHIN.AITE_CD
10	商品名	商品マスタ	SAM_SYOHIN.SYO_KANA
11	仕入先コード	商品マスタ	SAM_SYOHIN.SHI_CD
12	仕入先名	仕入先マスタ	SAM_TORIHIKI.TOR_MEI
13	国コード	仕入先マスタ	SAM_TORIHIKI.KUNI_CD
14	国名	国テーブル	SAM_MEI.MEI
15	合計数量	売上伝票	SAM_DENPYO.TOTAL_QTY
16	仕入原価	売上伝票	SAM_DENPYO.SHI_GENKA
17	課税区分	売上伝票	SAM_DENPYO.ZEI_KB
18	予定売価	売上伝票	SAM_DENPYO.YOTEI_BAIIKA
19	売上単価	売上伝票	SAM_DENPYO.URI_TAN
20	売上金額(税別)	売上伝票	SAM_DENPYO.URI_KIN_ZEIMUKI
21	消費税額	売上伝票	SAM_DENPYO.ZEI
22	請求額	<計算式>	
23	備考	売上伝票	SAM_DENPYO.MEI_BIKOU
24	店舗コード	売上伝票	SAM_DENPYO.SOUKO
25	店舗名	店舗マスタ	SAM_TORIHIKI.TOR_MEI

2. 計算式項目を追加したい位置にカーソルを移動し、<追加>ボタンを押す。

項目を選択してください。

参照テーブル: 項目:

売上伝票
日付変換マスタ
商品マスタ
分類テーブル
仕入先マスタ
国テーブル
店舗マスタ

計算式を指定 選択 取消

3. 項目選択画面で、左下の<計算式を指定>ボタンを押す。

23	備考	売上伝票	SAM_DENPYO.MEI_BIKOU
24	店舗コード	売上伝票	SAM_DENPYO.SOUKO
25	<計算式>	<計算式>	

基本情報(F1) 削除(F3) 追加(F4) 参照テーブル(F5) 計算式(F6)

4. 新しい行が追加され、項目名には<計算式>と表示されるので、項目名を上書きし、<計算式>ボタンを押す。

5. 計算に使用する項目を選択する。候補の項目には、参照テーブルで指定されたテーブルの全ての項目が表示されます。
項目が複数ある場合は、<追加>ボタンで追加する。
* 項目が1つも選択されていない場合、計算式画面の表示と同時に、項目選択画面が表示されず。項目を使用しない場合は、<取消>ボタンを押し、計算式を指定してください。

項目No.	項目名称	参照テーブル名
1		

削除(F3) 追加(F4)

計算式を指定してください。

* 計算式は、項目No.を使って指定します。
例: (%1 + %2) * 1.05

計算式の確認(F1)

OK

6. 計算式欄に計算式を指定する。

この時、項目は '%1' のように、%と項目 を使って指定する。

項目No.	項目名称	参照テーブル名
1	売上金額(税抜)	売上伝票
2	消費税額	売上伝票

削除(F3) 追加(F4)

計算式を指定してください。

%1+%2

* 計算式は、項目No.を使って指定します。
例: (%1 + %2) * 1.05

計算式の確認(F1)

OK

7. <OK>ボタンを押して、設定を保存する。